

第16号

# 川越初雁会



## 第九回川越初雁会総会開催される

令和元年九月七日（土）、くすのき祭と同日、川越氷川会館で、第九回川越初雁会総会が開催されました。岩堀会長挨拶の後、長坂副会長の進行で、平成三〇年度の事業報告、並びに決算の承認、令和元年度の事業計画案と予算案が承認されました。

引き続き、記念講演が行われました。要約は以下に記載します。



総会当日の会場風景

### 記念講演

## 膵がんとの戦い方

埼玉医科大学国際医療センター

副院長・QMC副センター長・消化器外科教授・肝胆膵外科診療部長



講演中の岡本氏

講師 岡本 光順氏（高三十七回）

裏側、十二指腸に取り込まれており、外科手術が難しい位置にあります。膵臓には大きく二つの役割があり、一つは強力な消化液である膵液をつくること（外分泌機能）、もう一つは血糖を調整するホルモンをつくることです（内分泌機能）。小さい臓器ですが、かなり重要な役割を担っています。

膵がんは年々増え続けており、年間三万人を越えて

います。手術が不可能な患者が多く、他のがんが治療法の発達により減少しているなか、膵がんは増え続けており、二十一世紀に取り残された消化器がんであるといえます。

膵がんとは膵臓から発生した悪性腫瘍のことです。膵腫瘍は数多くの種類がありますが、膵がんは一般には膵管がんのことを指します。

今日でも早期発見、早期治療は難しいとされています。その理由は、がんを見にくいこと、早期には特徴的な症状が出にくいこと、周辺に胃や肝臓、大腸があるため転移が早いことがあるためです。

### 講師略歴

川越市大手町在住、川越高等学校在学中は音楽部（バリトン）に所属、東京医科大学に進学し、卒業の後、同大学大学院博士課程外科学専攻修了（医学博士）趣味・川越まつり

### 膵臓の役割

膵臓は身体の中央にある、長さ十五〜二十センチ

メートル、太さ約二センチ

メートルの臓器です。胃の

おり、年間三万人を越えて

### 膵がんの基礎知識

膵臓は年々増え続けており、年間三万人を越えて

### 膵臓の検査方法



手術中の岡本氏

蓄積具合でがん組織を確実に判定できる。転移の有無や予後の見通しも評価できる。一方欠点として、高額、小さく密度の少ない腫瘍は見つけにくい。

**SRS**

最近開発された方法、神経内分沁腫瘍に有効、県内数カ所

**EUS／FNA**

胃カメラの先端にエコーを取り付け、胃や十二指腸をなぞることで、膵臓を直近で観察可能、微小な膵がんの発見に有効、また内視

**膵がんの治療方法**

鏡の先に針を装着し、がん病巣に針を挿入して、組織を採取することで、生検が可能になった。

膵がんの治療には、①外科手術、②化学療法（抗がん剤治療）、③放射線治療

などがあります。最良の治療法は、早期に発見して手術で切除することです。手術をするかどうかの判定は、「膵がん取扱規程」という学会が編纂した書物にまとめられています。

二〇一六年発行のもので大きな改訂がなされ、手術の可否の分類が定められました。

①切除可能、②切除不能境界、③切除不能の三つに明確に分け、手術しても延命が難しいことが明らか

な場合には他の方法を検討することになったのです。

① **切除可能膵がん**

これは腫瘍が臓器の動脈に接触していない、また浸潤していないものです。こ

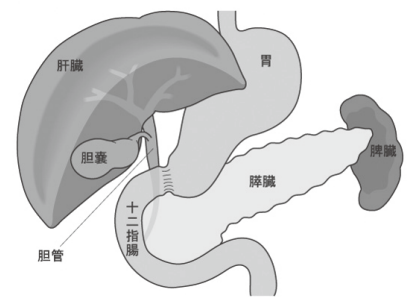
② **切除可能境界膵がん**

これは最も難しい判断が要求されます。簡単に説明すると、動脈への接触浸潤が一八〇度未満のものが対象となります。すなわち腫瘍が動脈を取り巻くのではなく、迫っている状態のことを示します。以前は即手術をすることもありました

が、現在では抗がん剤治療を行った後に手術を行うという治療になっています。

③ **切除不能膵がん**

これは動脈への接触浸潤が一八〇度以上のもので、手術は困難、基本的には化学



膵臓の位置

療法で延命していくことになります。またがんが狭い範囲にとどまっている場合は、放射線治療を組み合わせることもあります。また遠隔転移している場合も切除不能がんに分類されます。

しかし、化学療法を続けているうちに腫瘍が小さくなり、切除可能なままになったケースもあります。

どこで治療を受けたらいいの？

専門医のいる施設、症例数の多い病院を選ぶことはたしかに重要です。しかし

もっとも重要と思われることは、チーム医療がうまく機能している医療施設を選ぶことであると思います。

内科、外科だけではなく、放射線科、病理、緩和医療、精神科などさまざまな医療科によるチーム医療がなされて

いる病院です。また、自宅に近い病院ということも大切な条件であると言えます。

膵臓の病気は様々なタイプがあり、臓器の場所も身体の中央奥にあるため、完全な検査方法がありません。よって様々な検査法を組み合わせる必要があります。それだけ膵臓の診断は難しいというのが現状です。以下に主な検査法を示します。

**造影CT**

ここ数年でかなりの進歩非常に細かいところまで描出

**造影MRI**

膵管だけを撮影することが可能

**FDG PET／CT**

PETは全身を一度に検査可能 糖に似たFDGの



最新の検査機械



# 庭球部への思い



川中時代昭和十二年頃の庭球部

梶田 進一（高二十回）

の働きかけで実現できたものであった。そんな中、多くの諸先輩方から、組織を作り正式に会を立ち上げる提案があり、平成三十一年二月十六日、川越高校庭球部OB会を開催することができた。

ここまでの準備に、諸先輩の応援や高校二六年前後の後輩達の大変な尽力があったことに対し感謝の言葉しかない。

## 昭和三〇から四〇年代

今回、原稿の依頼を受け、資料（大会記録）を探してみたものの写真の一枚も残っておらず。（今の時代では考えられないことである。）数回のシニアOB会では先輩方の昔話を聞いたりもしたものの正式な記録にたどりつけなかったのである。そんな中、我家の古いアルバムを開いて見ていたと

ころ、私の父の川中時代の庭球部の写真が出て来た。父も川越高校（川中三五回）で戦前、私と同じコートで汗を流していたのである。不思議な思いがよぎる。かすかではあるがコート背景の記憶もよみがえってくる。ランニングシャツでの活動もなんとも言えない。

さて、私が高校入学したのは、三年後に埼玉国体が開催される年であった。庭球部に限らず全ての運動部が三年後の国体を目指し県レベルで強化が進められた。伝統ある庭球部は過去、全国制覇（芦沢・岡野組）を筆頭に毎年全国大会に出場という実績が続いていた。当時は、近藤鉄城先生、影山増夫先生、田中哲彦先生、石井正雄先生の四名の顧問体制であった。さらにたくさん先輩方に足を運んでいただき。遅くまで指導を受けた事は、辛い時間でもあったが技術の向上には欠かせないものであった。



合宿中の炊事当番

## 死ぬほど練習

そして夏休みの合宿はどの年代の部員にも忘れられないものである。当時、合宿場は学校から二キロ程離れた近藤先生の経営されていた幼稚園であった。リヤカーで寝具を運び、自炊をした思い出もさることながら、合宿中に来られた先輩たちの容赦ない特訓（？）、しごき（？）である。

今では考えられない練習風景である。水は自由に飲めず声が途切れるとランニングやらうさぎ飛び。夜も遅くまで説教を受けて寝るのも翌日。なんの説教であったか記憶がない（笑）。今となっては楽しくもあり笑い話である。そんな我々であっ

たが、国体出場の夢は叶わず、戸来・山田組がインターハイに出場するにとどまった。

現在、現役の後輩達の練習風景を見ることがある。皆、楽しんでボールを追っている。そして垢ぬけているのだ。OB達は彼等の一つでも多く勝星をあげて欲しいと願っている。昨年OB会を正式に立ちあげ、そこではできる限り、現役生をバックアップしてこういうという熱い思いを感じる事ができた。時の流れとともに人は変わる。環境も変わる。川越高校のシンボルである「くすの木」も変わった。全てが変わっていく中で変わらないものが、代々伝わってきている一人一人の思いや願いなのかもしれない。

いつまでも川越高校庭球部への愛を我々は忘れないでいたい。庭球部OB会の益々の充実と結束を。

「長澤英俊」刊行記念講演会開催

尾崎 勝美 (高十一回)

ヨーロッパで現代美術の彫刻家として、活躍してきた長澤英俊(高十一回)は、二〇一八年三月に急逝した。同級生の尾崎氏が、一〇年近く書き溜めた文章をまとめて「現代美術家 長澤英俊」として追悼出版し、この出版の記念講演が市立美術館で開催された。

刊行された追悼の書



イタリアを中心によりヨーロッパで現代美術の彫刻家として、五〇年に亘り活躍してきた長澤英俊は、ミラノで急逝した。七七歳であった。

長澤の急逝を残念に思う川高美術部OB達が彼を顕彰しようと、私が季刊誌『武蔵野ペン』に連載してきた「現代美術家 長澤英

市立美術館で十二月一日に開催されたが、私の講演要旨は以下のとおり。

一九六六年五月に長澤は自転車で日本を發ち、アジア、中近東を経て翌年七月にイタリアに着いた。イタリアの豊かな芸術文化に魅かれた彼はミラノに留ま

ることにした。大学時代に身につけた

空手の指導で生活の糧を得、夫人を日本から呼び寄せ、芸術家としての活動を開始したのであった。

この時期から五年後の一九七二年には、長澤は世界最大級の国際美術展「ヴェネツィア・ビエンナーレ」に日本代表として招待出品を受けている。日本では全くの無名であった一人の若者が、そこまで存在感を示し得た理由は何だったのだろうか。

イタリア到着の翌六八年夏にはイタリア北部の湖水地方で開かれた「アンフォ・アートフェスティバル」に参加要請を受けて、



在りし日の長澤英俊

湖水に浮かぶ高さ一〇メートルに及ぶビニールの塔二〇本を出品した。この作品で長澤は一躍新進作家として注目的となった。この結果、長澤は翌六九年には多くの画廊から企画展の聲がかかり、積極的に作品を出品。中には第一席の賞を受けている。

この間には、ニューヨークのグッゲンハイム美術館のキュレーターを名乗るエドワード・フライが長澤のアトリエに現れ、その作品を見て興味を示し、「第五回ジャパン・アート・フェスティバル」にぜひ長澤の作品を招待したいと要請した。このことから作品《ノンパラレレ》を出品した。多分日本のフェスティバル関係者は、長澤という無名作家の出現に驚いたことだろう。

一九七〇年のヴェネツィア・ビエンナーレには長澤の高校、大学の後輩で

ある関根伸夫(高十三回)が日本代表となり作品《空相》を出品した。この時、長澤は関根の面倒を見、コミッションの東野芳明との面識を得た。このことが二年後のビエンナーレへの招待出品の一つの契機になったことが考えられる。

当時イタリア国内の若手美術家の登竜門と言われた三つの画廊があった。七一年には、そのうちの二つの画廊で相次いで企画展を開催している。

こうした長澤の活躍はイタリア国内で高い評価となり、このことは日本国内にも伝わり、美術評論家たちも彼に注目し始めたのであった。この結果、一九七二年のヴェネツィア・ビエンナーレでの招待出品となった。

長澤の類まれな発想力から生み出される作品は、多くの人を魅力の虜にしたのであった。



# 雁の記

## 三芳野神社

川越散策日記

荒牧 澄多

(高二十七回)



修復の終わった三芳野神社

ますので。それはさておき。

二〇一五年に始まった漆や彩色の修理工事は、二〇一八年に完成しました。足掛け四年に亘る工事で、美しい姿を取り戻しました。

建物の形式は、本殿・幣殿・拝殿が一体となった複合社殿、いわゆる権現造です。本殿

「とうりゃんせ とうりゃんせ ここはどここの細道じゃ 天神様の・・・」ではじまる童謡のゆかりの地、三芳野天神。どうも、別の天神様を謡ったものらしいですよ。使われる方言が、川越周辺とは違いすぎ

と拝殿を石の間でつなぎ、上から見ると棟はエの字に見えます。この形式で現存する最も古い建物は、京都にある北野天満宮で、慶長十二年（一六〇七）に建てられました。また、豪勢に見えるため、東照宮によく

使われます。市内には、県指定文化財古尾谷八幡神社、市指定文化財広済寺金毘羅堂に見られます。

本社は、大同年間（八〇六〜八一〇）の創建と伝えられ、三芳野十八郷の惣社として崇敬を集めました。長祿元年（一四五七）の河越城築城の際には、太田道真、道灌により城の鎮守として崇められました。

記録によると社殿は、元和九年（一六三三）徳川家光の命により、奉行には川越城主酒井忠勝がなり、大工棟梁を鈴木近江守長次とし、寛永元年（一六二四）に造営されました。これが、現在の社殿とされていますが、当時は、拝殿と本殿が別々になっていました。松平信綱が奉納したとされる「三芳野天神縁起」に創建からの経緯がしたためられています。この縁起、撰文は林羅山、書は本阿弥光悦、絵は勝田竹翁です。川越市立博物館

を訪れると、この絵巻を拝見することができます。

明暦二年（一六五六）、徳川家綱の命により川越城主松平信綱が奉行となり、幕府棟梁木原義久によって大改修がなされ、現在の権現造になりました。当時の屋根材は、檜皮ヒノダか柿かき、桐トチ葺きなどの自然素材であったと考えられています。

その後、文化六年（一八〇九）に瓦に葺き替えられ、弘化四年（一八四七）には徳川家慶の命により、老中阿部正弘が奉行、甲良若狭が大工棟梁となり大規模な修理が行われました。大正時代に銅板葺き変わり、平成元年から三カ年に亘り半解体修理が行われました。

は、明暦の修理の時の新築でしようか、それとも改造。明暦二年に、江戸城二の丸にあった東照宮の建物が川越に移築されています。現在、氷川神社境内にある八坂神社がそれで、拝殿と幣殿部分が川越城に移され、三芳野神社の下宮となりました。

その後、明治になり現在地に移されます。では、東照宮の本殿はいずこにいったのでしょうか。三芳野神社の本殿に使われたという説があります。残念ながら今回の工事では、この説を裏付ける資料や痕跡は見つかりませんでした。五十年以上先になると思いますが、本格的な解体修理に結論を委ねましょう。

参考 川越の神社建築、三芳野神社社殿修理工事報告書（二〇一九発行）、三芳野神社社殿修理工事報告書（一九九二発行）

# 川越高校創立百二十周年記念式典

## 令和元年十一月一日ウエスタ川越大ホールで開催



創立百二十周年式典会場

団法人の設立等、多岐にわたります。

式典当日は、気持ちの良い秋晴れのもと、午前中の授業を終えた現役生徒および教職員が続々とウエスタ川越に集結し、また来賓、PT会、後援会、同窓会の出席者も来場するなか、午後一時より記念式典が始まりました。国歌斉唱のあと、飯田校長先生の式

川越高校 創立百二十周年記念式典が、令和元年十一月一日（金）ウエスタ川越大ホールで開催されました。この記念式典は、創立百二十周年記念事業の核となるイベントですが、その他にも、記念誌の発行、同窓会会員名簿の発行、学

辞、実行委員長である菊池健太氏のおいさつ、埼玉県教育委員長のことは、来賓の川越市長川合善明氏の祝辞と、式典は粛々と進行し、最後に校歌合唱で第一部は終了しました。休憩をはさんで、第二部の記念講演へと移り、講師の梶田隆章氏より「研究

生活を振り返って若い時に経験してほしいこと」との演題で、講演が始まりました。五年前に梶田さんが

ノーベル物理学賞を受賞した直後の講演に比べ、大変分かりやすい講演であったとの評判でした。講演後の質疑応答では、生徒やOBからかなり踏み込んだ質問が飛び交い、時間が足りないほどでした。第三部のアトラクションでは、音楽部による演奏、百二十周年に合わせた作成されたフィルムの上映、吹奏楽部の演奏、應援部による演舞と続き、最後に「奮え友よ」を披露して終了となりました。

現役生徒はここで解散となり、生徒以外の「大人」は会場を大ホールから一階多目的ホールに移して、祝賀会が行われました。多数の同窓生が参加され、年代別に着座、懇親をおおいに深めた秋の夜でありました。

## 第十六回ゴルフコンペ

優勝者  
斎藤 良雄（高十二回）



16回コンペ川越カントリーにて

たのが優勝できた要因と思います。

若いときは飛ばす醍醐味がありました。年齢的にも飛距離が落ちてきたのをカバーするため、最近の曲がらないゴルフを心掛けてプレーしております。

初雁会には当初から参加し、二回も優勝することができました。これは初雁会皆様方の御尽力のたまものと深く感謝申し上げます。

これからも皆様と長くゴルフを楽しめるように、健康に留意して頑張りますので、どうか宜しくお願い致します。

### 事務局からのお願い

年会費二千円未納の方は、お早めに納入をお願いいたします。

### 発行人

会長 岩堀 弘明

事務局 川越市六軒町一三十三

題字 吉沢翠亭義和

印刷 (株)櫻井印刷所

十月三日 川越カントリーにて天候にも恵まれ、総勢三十六名のメンバーと楽しいゴルフをプレーすることができました。今回は十二回生四人と回り、前半はアプローチとパターが決まらず、苦しいゴルフでしたが、後半何とか修正して回ることができ